

○副議長（曾根嘉明議員） 次に、河原崎奈都子さん。

〔8番 河原崎奈都子さん登壇〕

○8番（河原崎奈都子さん） 私は、市役所のホームページにありました借金時計を初めて見たときの、その金額の大きさにとても衝撃を受けたことを今でも覚えています。この負の遺産を未来を担う子供たちに残さないためにも、定住化を促すシティープロモーション政策について提案させていただきたいと思います。

人口が1人増えるだけで、その人が仮に生涯島田市に定住するならば、およそ500万円の税収が見込めます。これが家族単位の生涯賃金の税収となると、その収入は何倍にもなることは想像に難くないでしょう。

今後、シティープロモーションと並行して観光の交流人口から定住人口にシフトする政策を展開していただきたいと考えております。

交流人口の生み出す経済効果は一過性のものであり、いわば水ものであります。定住人口はいわばルーティン収入として確実なものであり、安定した市政の展開につながります。島田市には歴史的背景がしっかりした観光資源がたくさんあります。島田大祭、島田鬮まつり、金谷茶まつりなど、ほかに類を見ない珍しい文化もあります。この観光資源を生かしたシティープロモーションの交流人口とともに、島田市に定住することで得られる価値を並行して発信し、魅力を感じ、定住化が進められるように、一つの流れの中で政策を展開していただきたいと考えております。

そこで、質問をさせていただきます。

1の(1)シティープロモーションの目指すところは何か。最終目標、島田市のあるべき姿のビジョンを教えてください。

(2)今回提案する定住化促進について、検討は可能か伺います。

続きまして、2の子育て支援対策について述べ

させていただきます。

家を持つタイミングとして最も多いのが、結婚や子育て家庭だと私は考えております。では、仮に自分が子育てのために家を建てようとして近隣市町村の情報収集を行っていたとします。一つの市が、「子育てに力を入れています」と掲げています。もう一つの市が、「子育て日本一です」と掲げています。あなたなら、どちらの市を選びたいと思いますか。私は、圧倒的に明確な指標がある「日本一」という言葉にひかれる方が多いと感じます。

では、島田市はどうでしょうか。私がほかの市の子育てをしている友人と情報交換をする中で、近隣市町村に比べて島田市は子育て支援が厚いとは感じておりますが、果たして日本一かどうかは私にはわかりません。

先ほど述べた定住人口獲得のためには、もう一押し、「日本一」を掲げることが必要ではないでしょうか。例えば、子育ての段階別行政サービス早見表、保育園待機児童ゼロ、乳幼児期の家庭への手厚い支援、親のためのさまざまな勉強会の支援、安心して子育ての環境を迎えられる体制づくり、掲げれば切りはありませんが、この中でどれか一つのジャンルでも日本一を掲げて明確な指標を打ち出してはいかがでしょうか。1番という言葉ほどわかりやすいメッセージはありません。島田市が今後、選ばれるためにも、ぜひ御検討いただきたいと考えております。

また、私自身、子育てをしながら働く母親として感じたことがあります。子供がいると残業ができなかったり、急に休まなければならないことが多々あり、職場への見えない劣等感があります。また、出産を機に職場を去る女性はまだまだ多いと感じております。産後、職場に復帰したり、新たに働きに出る女性を支援するために、産後女性を積極採用する企業への優遇措置の検討を是非行っていただきたいと考えております。

そこで、以下の質問をさせていただきます。

(1)現在の市内保育園の待機児童の現状を伺います。

(2)待機児童解消のために特別な取り組みを今後予定しているのか伺います。

(3)女性の社会進出支援のために産後女性の職場復帰対策として、民間企業と共同して政策展開することは考えているのか伺います。

(4)民間の子育て支援サークルへの助成は考えているのか伺います。

続きまして、3の市民活動支援について述べさせていただきますと思います。

市民活動とは一体何を指すことでしょうか。市民活動とは、阪神大震災のボランティア活動を機に飛躍的に数が増加したNPO法人やNPO団体のことであり、その目的は、社会問題を市民が主体となり解決することです。

公的なサービスの行き届かない部分において、柔軟でありながら、市民が主体となって問題解決に取り組み、さらに活動を通して感動や喜び、達成感を感じることができ、社会に貢献するとてもすばらしい活動であります。

現在、島田市においても、私自身が調べたデータではありますが、100を超える市民活動団体があり、それぞれの得意フィールドで島田市のために、地域のために活動を行っております。市民活動がさらに活発に、住民と地域と一体となって展開されれば、島田って何かやっている。島田は何か楽しそう。島田なら、何か新しいことにチャレンジができるかもという機運が広がり、最終的な目標として、島田のファンとして定住化の促進が可能となると考えております。

市政における主体は市民です。市民一人一人が生き生きとし、市民活動を通じ自己実現や社会貢献といった充実した生活を送れることは、今の島田市にとっても必要なことではないでしょうか。そこで、以下の質問をさせていただきます。

(1)現在の市役所の市民活動支援はどのようなものか伺います。

(2)島田市まちづくり支援事業交付金がありますが、今後増額や、さらに幅広い活用を考えているのか伺います。

以上で、壇上での質問を終わります。

[8番 河原崎奈都子さん発言席へ移動]

○副議長(曾根嘉明議員) 染谷市長。

[市長 染谷絹代登壇]

○市長(染谷絹代) 河原崎奈都子さんの御質問についてお答えをいたします。

まず、1の(1)の御質問についてお答えをいたします。

シティープロモーションの目指すところは、人口減少が進む中、島田市では本市の魅力を発掘、創出し、島田ブランドを市内外に効果的に発信し、現在、島田市に住んでいることの誇りを高め、愛着を深めるとともに、市外からの人口流入を図り、定住人口の増加につなげていくことだと考えております。

また、島田市のあるべき姿のビジョンにつきましても、島田市総合計画基本構想に掲げる将来像、「人と産業・文化の交流拠点 水と緑の健康都市 島田」を目指して後期基本計画で掲げる3つの重点プロジェクトのほっと定住プロジェクト、やりがい共同プロジェクト及びにぎわい交流プロジェクトを展開することが必要であると考えております。

次に、1の(2)の御質問についてお答えをいたします。

私は、シティープロモーションを重点施策として位置づけ、本年5月に市の現状分析や魅力の発掘方法、そしてPR方法について調査、検討し、シティープロモーションの戦略プランを策定するために、シティープロモーション推進チームを設置しております。これまで定住化の促進を図るため実施してきております企業誘致などによる雇用

の場の創出や、住環境の整備のほか、河原崎さんから御提案のありました定住化の促進につきましては、この戦略チームで検討しております。

次に、2の(1)の御質問についてお答えをいたします。

保育園の待機児童は、平成26年4月1日現在で4人でありましたが、この待機児童は既に全員、保育園に入園されております。しかし、4月2日以降に申し込みがあった児童で、7月1日現在、保育園に入園していない新たな待機児童は4人おります。

この待機児童とは、調査日時点において入園申込書が提出され、保護者が就労等により昼間、家庭にいないなど、保育に欠けるという入園要件に該当しているものの、定員超過のために保育園に入園できない児童であります。そのため、ほかに入園可能な保育園があるにもかかわらず、特定の保育園を希望するなど、保護者の私的な理由により待機している場合や求職活動中の場合などは除いて算出をしております。

なお、先ほど申し上げた保護者の私的な理由で待機している児童や求職活動中の方の児童等も含めた全体数では、7月1日現在、待機児童は7人となっております。

次に、2の(2)の御質問についてお答えをいたします。

待機児童解消のため、今後、市で予定している取り組みでございますが、まず、民間保育園や認定こども園に対しては、特に待機児童の多い0歳児から2歳児の定員増の要請を行ってまいりたいと考えております。

また、民間幼稚園に対しては、同じく0歳児から2歳児の保育園児の受け入れが可能な認定こども園への移行について要請してまいりたいと考えております。

このほかに保育者の居宅等を活用した家庭的保育事業、いわゆる保育ママの増加や、定員20人未

満の少人数を対象として家庭的保育事業に近い雰囲気のもとで保育を行う小規模保育事業など、地域における多様な保育ニーズにきめ細かく対応できる保育の提供に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、2の(3)の御質問についてお答えをいたします。

今後の人口減少へ歯止めをかけるための対策や、働きやすく、子育てしやすい島田市を目指すためにも、女性の社会進出の支援や産後女性の職場復帰等対策などの施策は重要であると認識しております。その対策として、女性の社会進出支援についての啓発活動は実施しているものの、民間企業との共同した取り組みについては現時点では実施していないという現状であります。河原崎さんから御提案いただきました民間企業と共同した施策の展開については、企業への優遇措置も含めて行政としてどのような方法があるか研究してまいりたいと考えております。

次に、2の(4)の御質問についてお答えをいたします。

民間の子育て支援団体への助成ですが、本市には島田市集いの広場事業交付金という補助制度があります。これは地域の公民館、公会堂等を使い、乳幼児及びその保護者の交流、育児相談、育児に関する情報提供等を行う団体を支援するもので、交付金額は7万円を基本額に、実施回数に応じた回数割額を加えた額を限度として交付しております。町内会との連携、協力のもと、毎月1回以上実施する等の要件がありますが、是非この制度を御利用いただければと思います。

次に、3の(1)の御質問についてお答えをいたします。

NPOやボランティア団体の社会貢献活動を支援するため、これらの団体が市に社会貢献活動団体として登録し、社会貢献活動を行う目的で島田楽習センターの会議室を使用する場合は、会場使

用料を月に2回まで免除しております。

また、NPO団体、市民活動団体、福祉団体、文化団体等で地域交流センター歩歩路の運営協議会に登録をしていただきますと、歩歩路の活動室を無料で使うことができ、かつまたリソグラフ等の印刷機器等を安価で利用することができますので、ぜひ御利用いただければと思います。

次に、3の(2)の御質問についてお答えをいたします。

島田市まちづくり支援事業交付金につきましては、申請件数や交付金額の推移を踏まえ予算措置をいたしております。このため現時点において増額することは考えておりませんが、また、幅広い活動につきましてはまちづくり支援事業交付金が協働の担い手となるべき団体を育成、支援し、市民団体との自発的な公益活動の推進を図ることが目的であることから、この目的を変更することは考えておりません。

しかし、このまちづくり支援事業交付金を使いたいという団体が増えていけば、予算措置も増やしてまいりますし、是非こういった要綱に適合する団体が公民館等を活用して、月1回以上の市民活動を実施していただくことを私からもお願いをしたいと思います。

以上、御答弁を申し上げます。

再質問につきましては担当部長から答弁させる場合がありますので、よろしくお願いをいたします。

○副議長（曾根嘉明議員） 河原崎さん。

○8番（河原崎奈都子さん） ありがとうございます。

2の(1)について再質問させていただきます。現在、出産を終えた女性で職を失っている女性が、もう一度、就職のために保育を利用したい場合、どうしてもその順番が後ろになってしまい、保育を受けられないという状況があるというのを、私自身、友人から多々聞いたことがございます。

この点について、出産後の女性がもう一度、職場復帰をするために、保育を利用することが可能かどうか、その順位を上げることが可能かどうか伺わせていただきます。

○副議長（曾根嘉明議員） 畑健やか・こども部長。

○畑やか・こども部長（畑 活年） 現在の制度におきましては、そういった失職をしている方は、求職活動の場合であっても、基本的には順位としては後になってしまいまして、保育園には入れないという状況がございます。ただ、保育園の状況にもよりますが、空きがあれば入園することも可能でありますので、そうしたことで対応していきたいと思います。ただ、入園した場合につきましては、2カ月間を目途に就労証明書等を提出していただいております。

以上です。

○副議長（曾根嘉明議員） 河原崎さん。

○8番（河原崎奈都子さん） ありがとうございます。島田市はかつて商店街が日本一だったということを私は聞いております。そのポテンシャルはまだ失われていないと感じております。もう一度、子育てというジャンルで日本一になれるように、ぜひ、市民が一人一人主体性を持った充実した生活を送れるような政策を期待しております。

また、大震災以降、津波や東海地震への危惧等、さまざまな要因が重なって、静岡県全体で人口流出が続いているということも拝見しております。島田市はあえてこの逆行に立ち向かって、日本一選ばれる市になっていただきたいと考えております。

以上です。

○副議長（曾根嘉明議員） 染谷市長。

○市長（染谷絹代） 河原崎さん、ありがとうございます。日本一ということ掲げることでよりわかりやすくなるというお話もいただき、本当にそのとおりだと思います。私自身も視察する中でさ

さまざまな日本一を掲げる市を見たことがございます。私は、キャッチコピーだけでなく、本当にそれに相応する施策の内容こそが重要だと思っております。

今、日本一の子育て支援という言葉は使っておりませんが、その中身につきましては、私は市民ニーズに、子育てするお母さん方のニーズに寄り添うという意味では、ほかにないほど力を注いでいるまちだと思っております。現実、子育てカフェ等を通じて、子育て中のお母さん方が感じておられる課題だとか、こんな支援があったらいいのにとというような支援をお伺いしながら、それを具現化する、つぶやきを形にしていく、そういった努力を担当課もいたしております。私ももちろん一生懸命それを邁進し、子育て世代の方々に選ばれるまち島田をつくっていきたいと思っております。

また、日本一の商店街が少し寂しくなってきたというようにお話でございましたが、これはいろいろな側面がございます、例えばお茶の価格が低迷し、静岡のお茶がなかなか担い手もなく難しい状況になってきております。これも商店街のにぎわいと無関係ではございません。やはり島田市において主産業であるお茶が、茶価が高く、担い手が多く、生産量が多ければ、商店街にもぎわいます。そんなふうによりさまざまな産業がつながって商店街のにぎわいに通じているということも知っていただければと思います。

また、担い手の問題、商店街の2代目、3代目さんの問題でありますとか、さまざまな課題がございます。商店街の皆様とも我が商店街をどんなふうな形にして、地元にとって一番より良い市民に足を運んでいただける、あるいはよそから来た方にぜひ土日は島田市の商店街に行ってみようと言ってもらえるような、そういったまちづくりをするには、どうしたらいいかということ、実は商店街の代表の方々とお話をすることも持って

おります。

そんなに簡単なことではありません。しかし、今、それが一つずつ動き始めていると思っております。おび通りの活用等についても真剣に考えております。さまざまな規制はございますが、やれることはたくさんあると思っております。やれないことを数えるよりも、やれることを一つずつやっけていき、その中で成功することばかりではないかもしれないけれども、でも、市民とともに、皆様方とともに行動に移していくことがこのまちを変えていくことだと思っておりますので、是非これからは忌憚のない御意見を聞かせていただき、かつまた、河原崎さんのお仕事の範囲の中でやれることでお力を尽くしていただければありがたいと思います。どうぞよろしくお願いをいたします。

○副議長（曾根嘉明議員） 河原崎さん。

○8番（河原崎奈都子さん） ありがとうございます。

以上で私の質問を終わります。